『面接練習真っ只中』

◇一月中旬から、推薦入試に向けた面接練習が開始されています。これまでに校長室にも四名の生徒が面接練習に訪れました。

その四名に共通すること。それは、臨む姿勢、質問に答える構えが誠実で、伝えようとする想いが伝わってくること。単に質問に答えるのではなく、自分の想いを届けようとする姿を示すことは、決して容易なことではありません。初めての環境（場所・人）の中、どんな質問をされるのかもわからず、答えることで精一杯になるのは当たり前です。人によって違いはあるにしろ、緊張も加わります。そんな中、伝えようとする想いが相手に伝わるのは、進学先で頑張ろうとする強い意志があること、学校だけでなく、家庭における練習といった積み重ねによるところが大きいと言えます。

私もこれまで様々な場面で面接を受け、面接官としてその場に立ち会ってきました。面接を受けた際には、「もっと勉強・練習をしておけば良かった。」と後悔したことがありました。また、「もっと柔らかな対応をしてくれればいいのに。」と対面接官に対して思ったこともありました。しかし、真逆の立場である面接官を行うと、その人の『人となり』『考え方』を引き出すことが、その人だけでなく、取り巻く環境のその後を大きく左右するから、時として厳しい質問や突っ込んだ質問をせざるを得ないという責任を実感しました。受験する側も面接官も真剣だということです。

面接は、進学する時だけではありません。社会に出る際にも面接はほぼ行われます。その際にポイントとされていることを以下にまとめます。

一、明るさ・笑顔・人当たりの良さ
二、入社したいという熱意
三、素直さや伸びしろ等、成長の可能性
四、職場の雰囲気に合うかどうかといった適応力
五、真面目さ・誠実さ
六、言葉遣い・態度
七、臨機応変な対応力
八、企業に対する理解の深さ
九、自己紹介・自己PRの内容
十、バランスのよさ

このポイントから言えることは、その場での取り繕いはすぐにボロが出てしまうこと、日頃の姿勢が大切であること、そして勉強・練習が必要であることです。

一、二年生も日頃からの言動を意識して取り組んでいく必要があります。日頃の姿がいざという時の姿につながるということです。

受験に向かう三年生の健闘を祈ります。

頑張れ、北中三年生！！